

【甲賀市】 校務DX計画

1. 甲賀市の校務DX化の現状

令和4年度に教職員現場のSaas化を進め全教職員に指導者用端末の整備及びMicrosoft teamsの導入を行い全教職員が、クラウド上でデータの共有、オンライン会議などを実施できる環境構築を行った。

令和5年度は、次世代の校務支援システムの向けた検討を踏まえ、ゼロトラスト環境構築を行うとともに、ゼロトラスト環境を最大限活かすために、統合型校務支援システムのフルクラウド化、校務系・学習系などネットワークごとに分離されていた環境を統合、リモートワーク環境の構築を併せて実施することで、配布している端末1台で各教職員が自身合わせた業務体制を実現できる体制を整備した。

校務支援システムでは、システム内での入力情報の同期連携を行っており、余分な情報入力の一掃に取り組んだ。

令和6年度に欠席連絡や保護者への一斉通知など各種連絡物の共有をデジタルツールで行える環境整備を行い、学校と保護者間のやり取りの効率化を行った。

令和8年度は、勤怠管理システムの導入を行い負担軽減につなげる予定である。

今後も一元管理を行えるシステム構築を進め教員の負担軽減を図っていく。

2. 「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト」の自己点検結果における課題

教育現場のデジタル化が進む中で、教職員等のデジタルリテラシーの向上が求められ、個々の能力差を少なくするために必要な研修、資料提供を行っていく必要がある。

押印については、教育委員会が必須で求めている書類等を無くす事で、廃止と同状況として認識している。また、FAXについては、日常業務での使用は求めているが、通信手段の一つとして機能維持だけは行っている。

出退勤管理については、システムを令和8年度に導入しデジタル化を進める。